

2022年度 第2四半期決算説明会

 **大阪製鐵株式会社**

2022年11月21日

1. 2022年度 第2四半期決算の概況

2. 2022年度 業績見通しについて

3. KOSの状況について

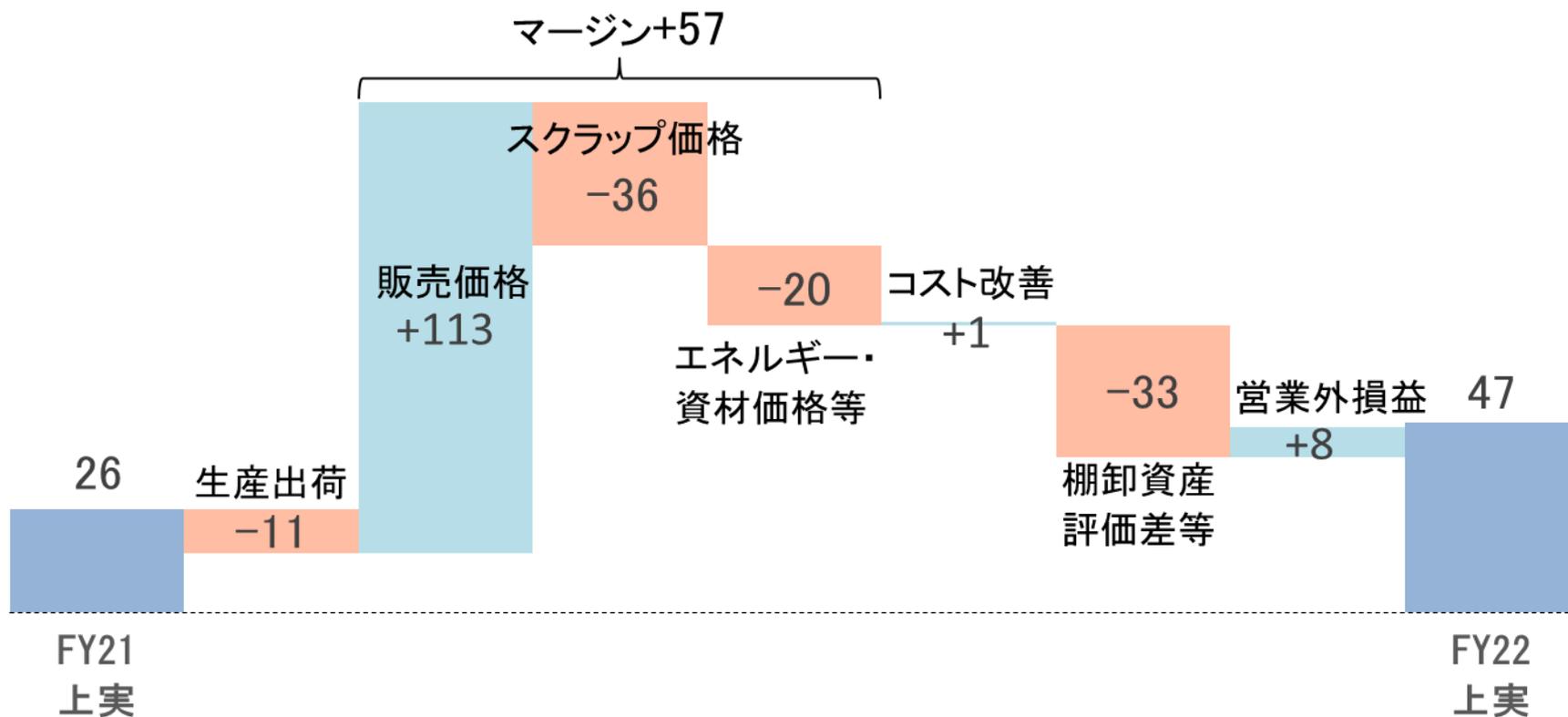
4. Sプロの進捗について

	FY21上期(A)	FY22上期(B)	対前年度(B)-(A)
鋼材売上数量(千t)	555	455	-99
(単位:億円)			
売上高	472	552	+80
営業利益	27	42	+14
経常利益	26	47	+22
特別損失	-	※ -14	-14
当期純利益	17	22	+5
ROS	5.5%	8.6%	+3.1%

※特別損失:事業構造改善費用

経常利益の変化要因(21上実→22上実)

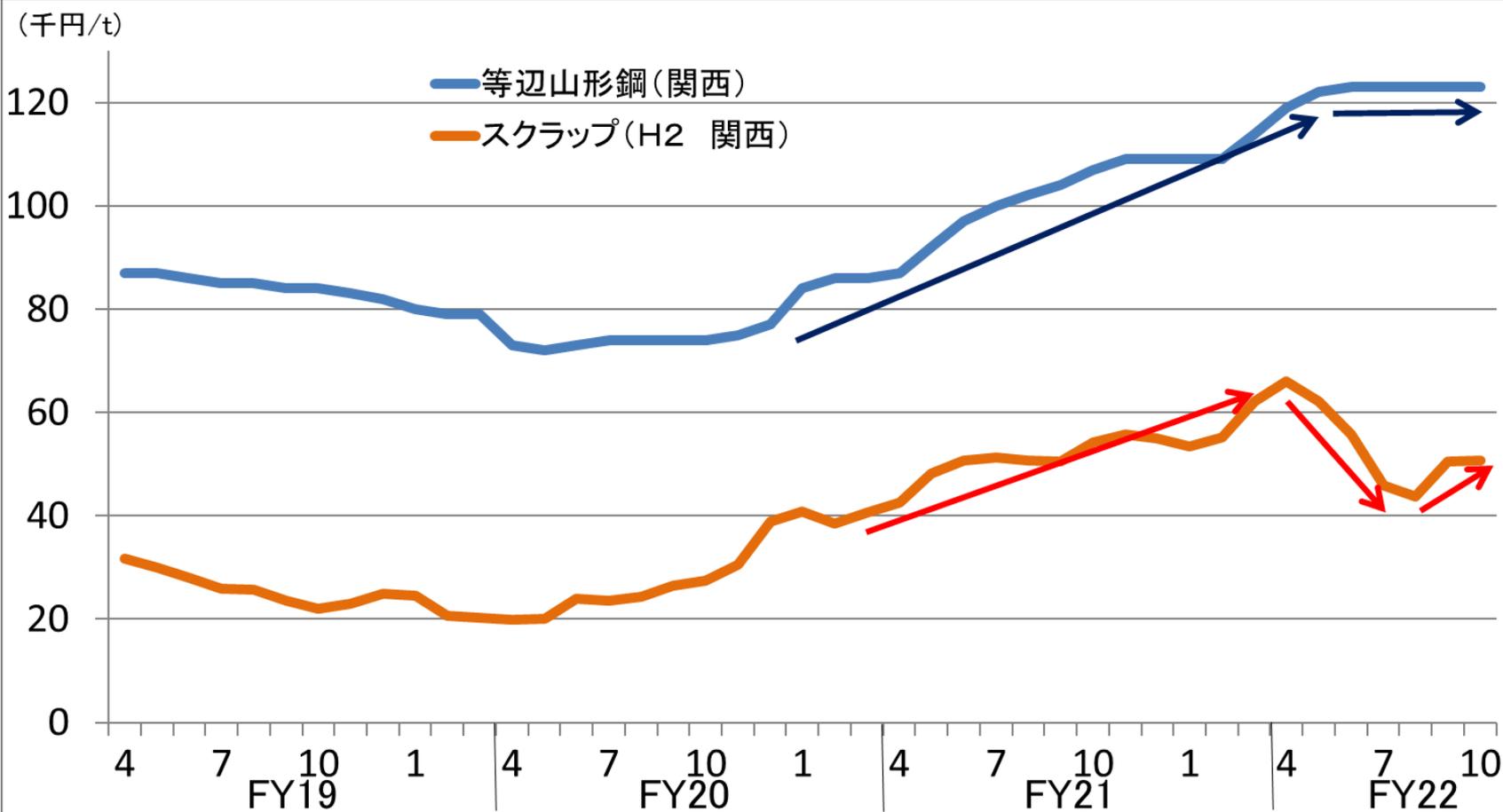
(単位: 億円)	FY21 上実 (A)	FY22 上実 (B)	増減 (A→B)
経常利益	26	47	+22



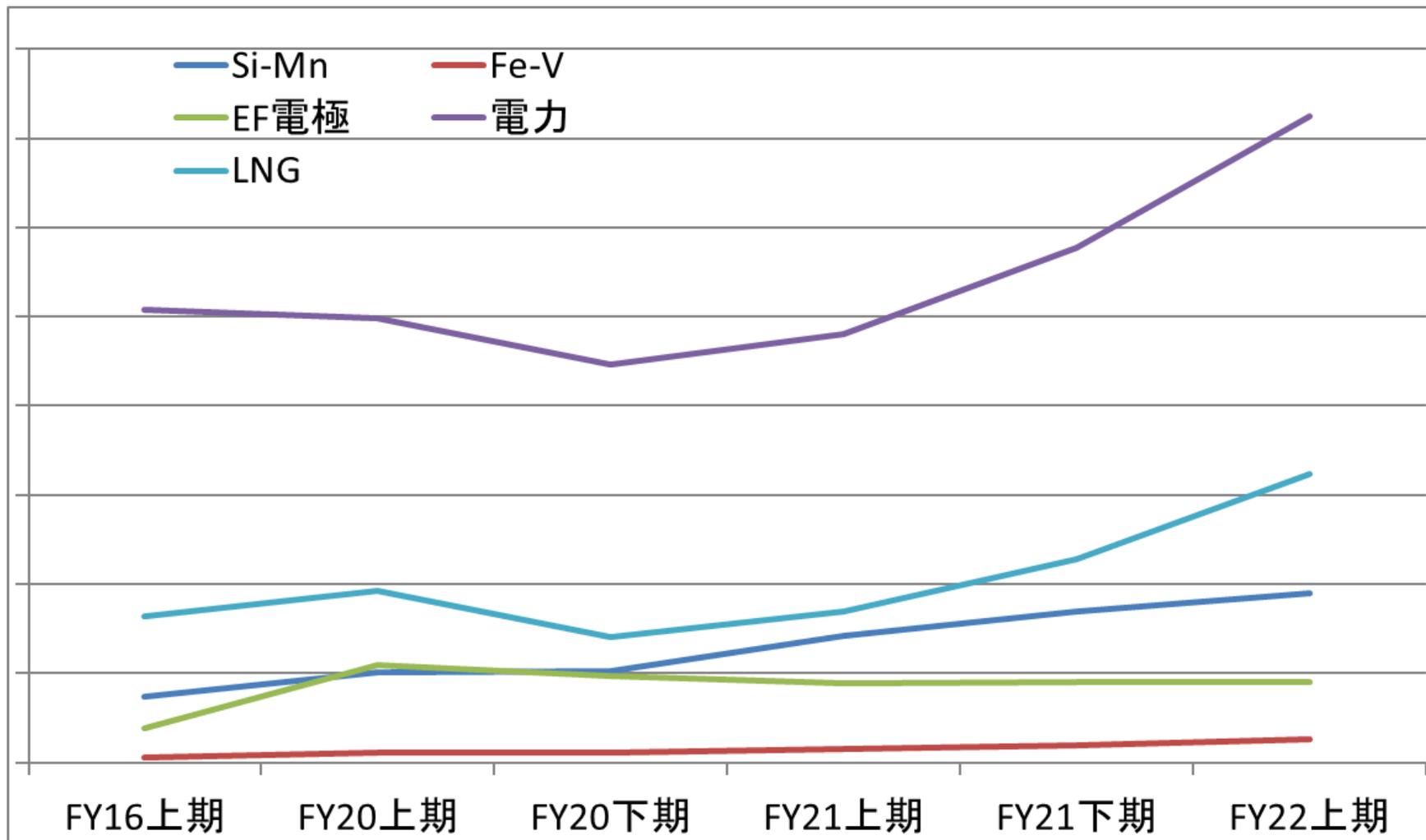
製品およびスクラップ市況推移

- ・20FY後半以降のスクラップ価格の高騰に対し、製品市況は追いかけて上昇。
- ・22年5月以降、一時的にスクラップ価格が下落したが再上昇を始めている。
- ・また、資源高は解消されず、電力や燃料価格は今後さらに上昇することがほぼ確定しており、厳しいコスト環境が継続。

販売価格の維持・改善を最優先の課題としつつ、自助努力によるコスト改善を進める。



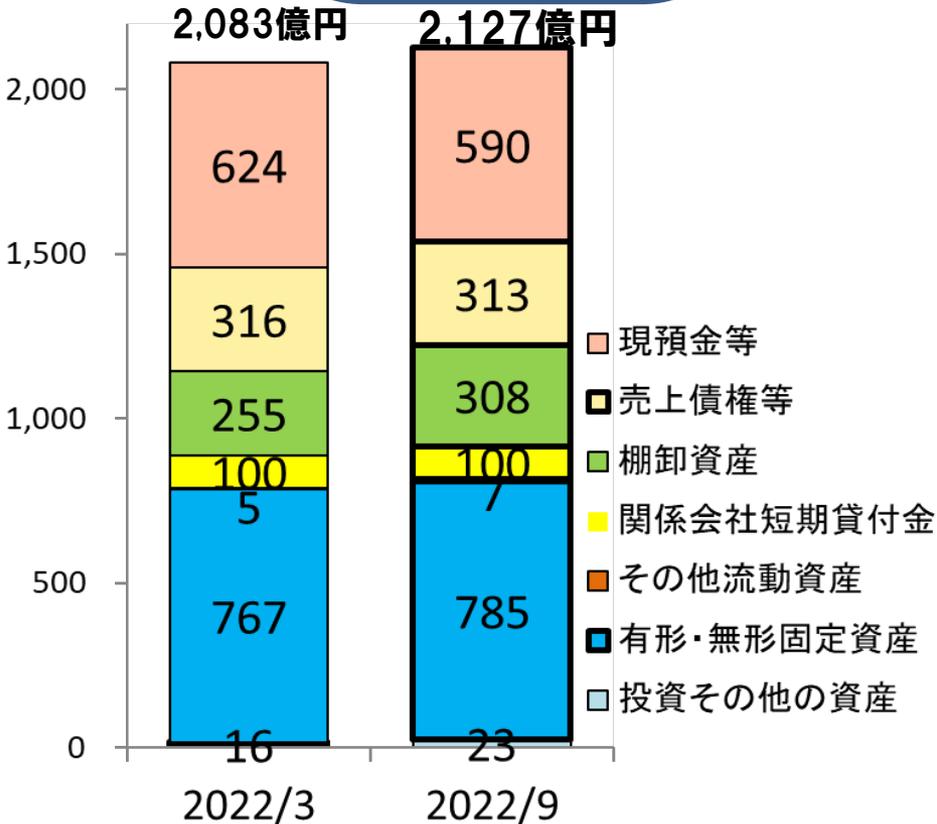
エネルギー・資材価格の急騰で、厳しいコスト環境が継続



貸借対照表

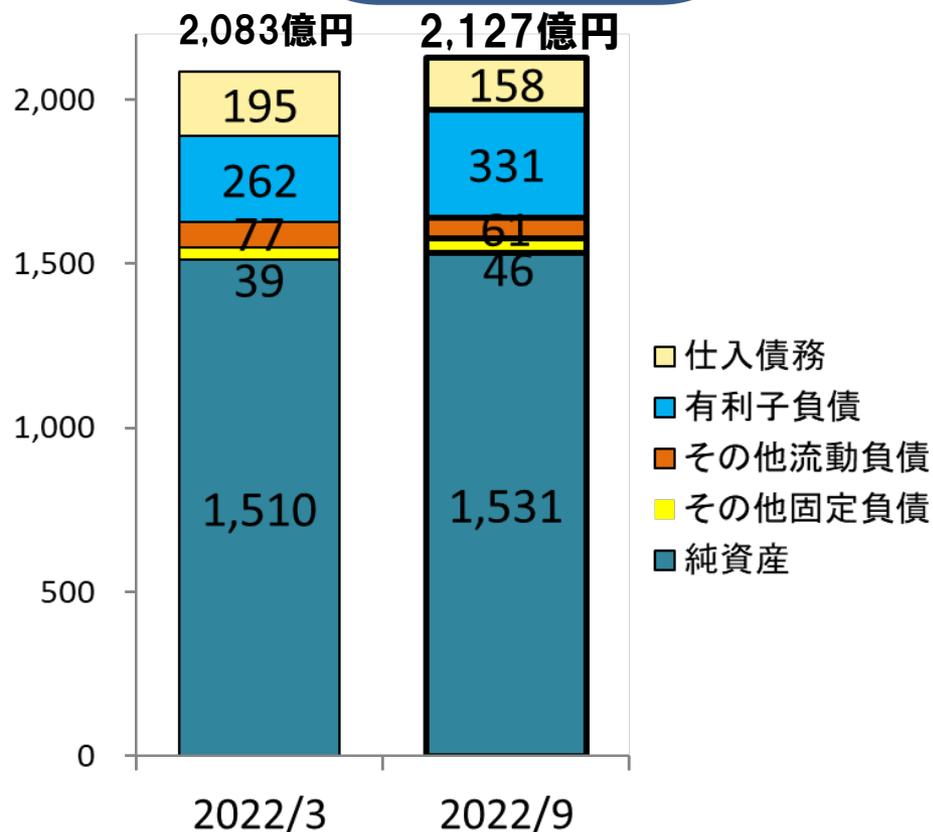
(億円)

資産



(億円)

負債・純資産



資産の主な増減 +44億円

棚卸資産 +53億円: 原材料価格上昇による
在庫単価上昇

負債・純資産の主な増減 +44億円

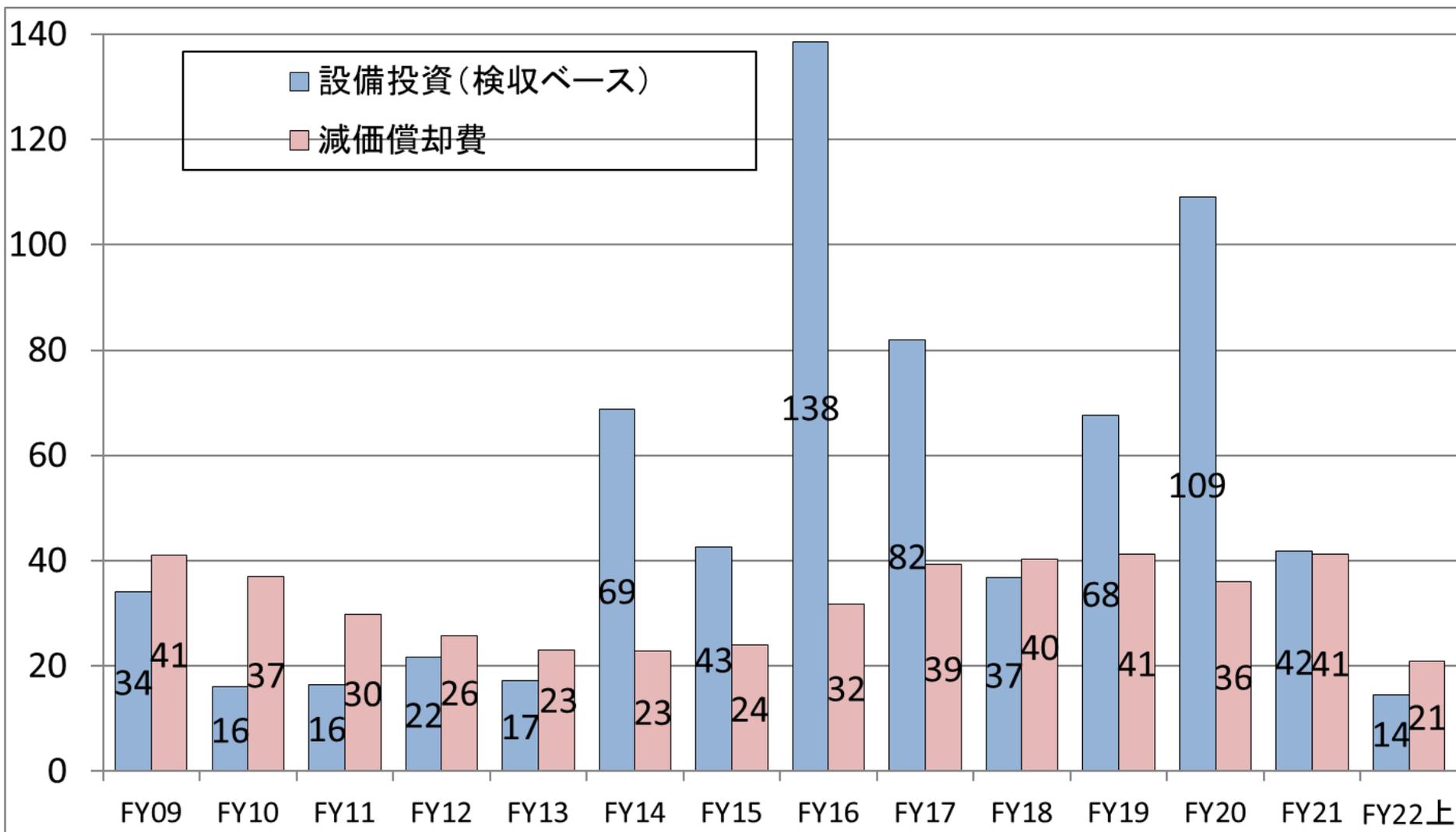
仕入債務 -37億円: 原材料購入量減少による仕入債務減少
 その他流動負債-16億円: 設備未払金減少他
 有利子負債 +69億円: 主に為替差影響
 純資産 +21億円: 利益剰余金+17億円(当期純利益、支払配当)、
 その他の包括利益+3、非支配株主持分+1億円

キャッシュフロー計算書

	FY17	FY18	FY19	FY20	FY21	FY22上
営業活動によるCF	-9	32	169	42	29	-28
税金等調整前当期純利益	67	65	67	16	39	33
減価償却費	39	40	41	36	41	21
法人税等の支払	-14	-34	-27	-21	-4	-9
運転資金等	-101	-39	87	11	-47	-73
投資活動によるCF	-90	-37	-61	-110	-43	-24
設備支出	-90	-38	-66	-113	-46	-24
株式売却収入	-	1	0	4	2	0
その他	0	-0	5	-0	1	0
フリーキャッシュフロー	-98	-5	108	-68	-14	-51
財務活動によるCF	115	26	11	-49	8	13
借入金の増減	127	41	22	-41	14	18
自己株取得	-0	-0	-0	-0	-0	-0
支払配当	-12	-15	-11	-8	-5	-5
その他	-0	-0	-0	-0	-0	-0
為替換算	-0	-1	-1	-1	3	5
現金同等物増減	17	20	118	-118	-2	-34

	2021/9	2022/3	2022/9
自己資本比率	73.9%	71.4%	70.8%
1株当たり純資産	3,802円	3,819円	3,871円
当社株価	1,113円	1,553円	1,136円
PBR	0.29	0.41	0.29
総資産経常利益率 (ROA)	2.6%	2.0%	4.5%
自己資本当期純利益率 (ROE)	2.4%	1.7%	3.0%

設備投資・減価償却費の推移

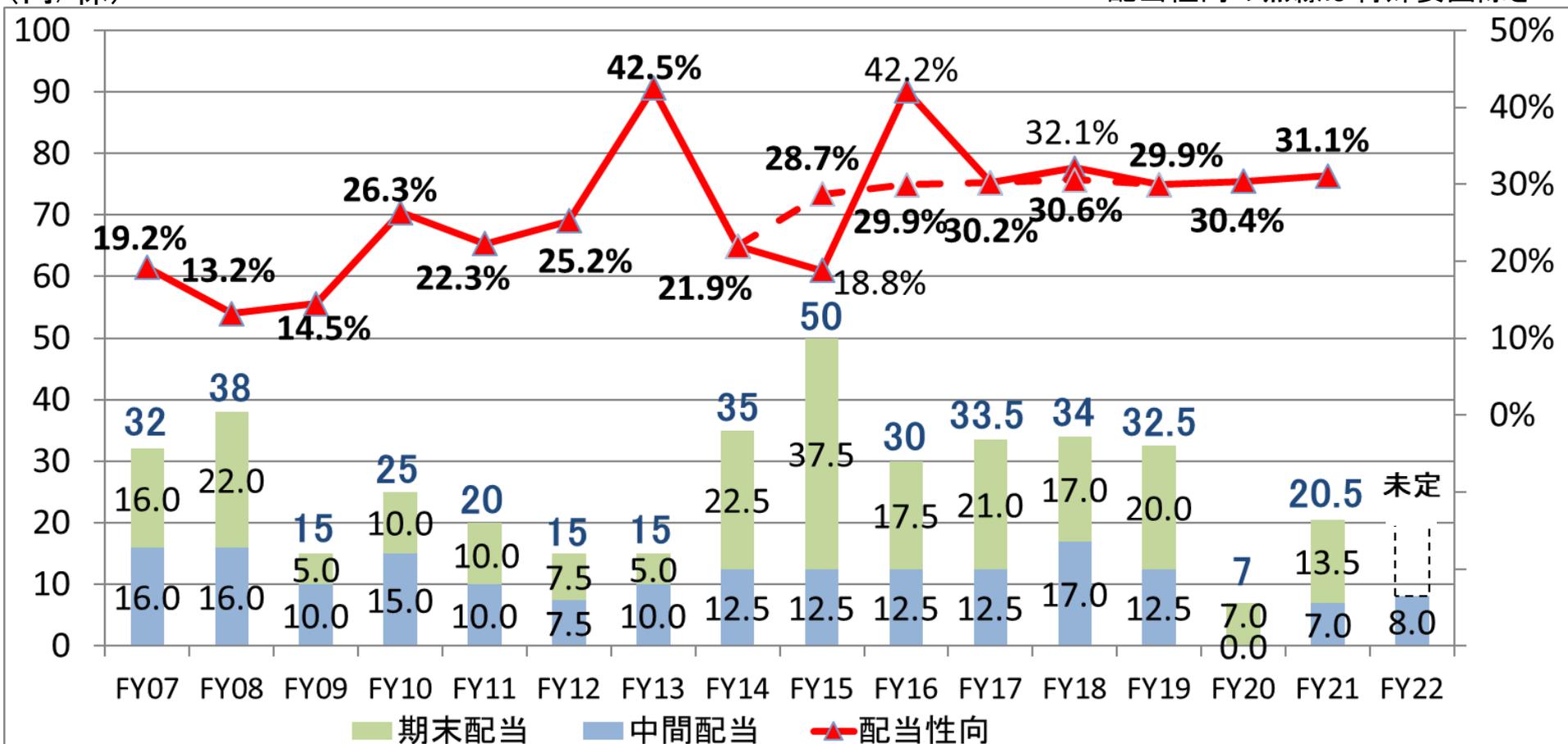


22年度配当金について

- ・22年度第2四半期末配当は、1株当たり8円を実施
- ・22年度期末配当は、需要環境の先行きが不透明な状況にあることから、今後の業績動向を見極めつつ検討することとし、未定としております。

(円/株)

配当性向の点線は特殊要因除き



1. 2021年度 決算の概況

2. 2022年度 業績見通しについて

3. KOSの状況について

4. Sプロの進捗について

連結経常利益60億円(対21年度実績+20億円)

- ・22年度は、更なる大幅なエネルギー・資材価格の上昇が想定されるうえ、生産出荷量の減少、棚卸資産評価差益の減少はあるものの、マージン確保、コスト改善の推進等に対21年度実績で20億円の増益を見込む

(単位:億円)

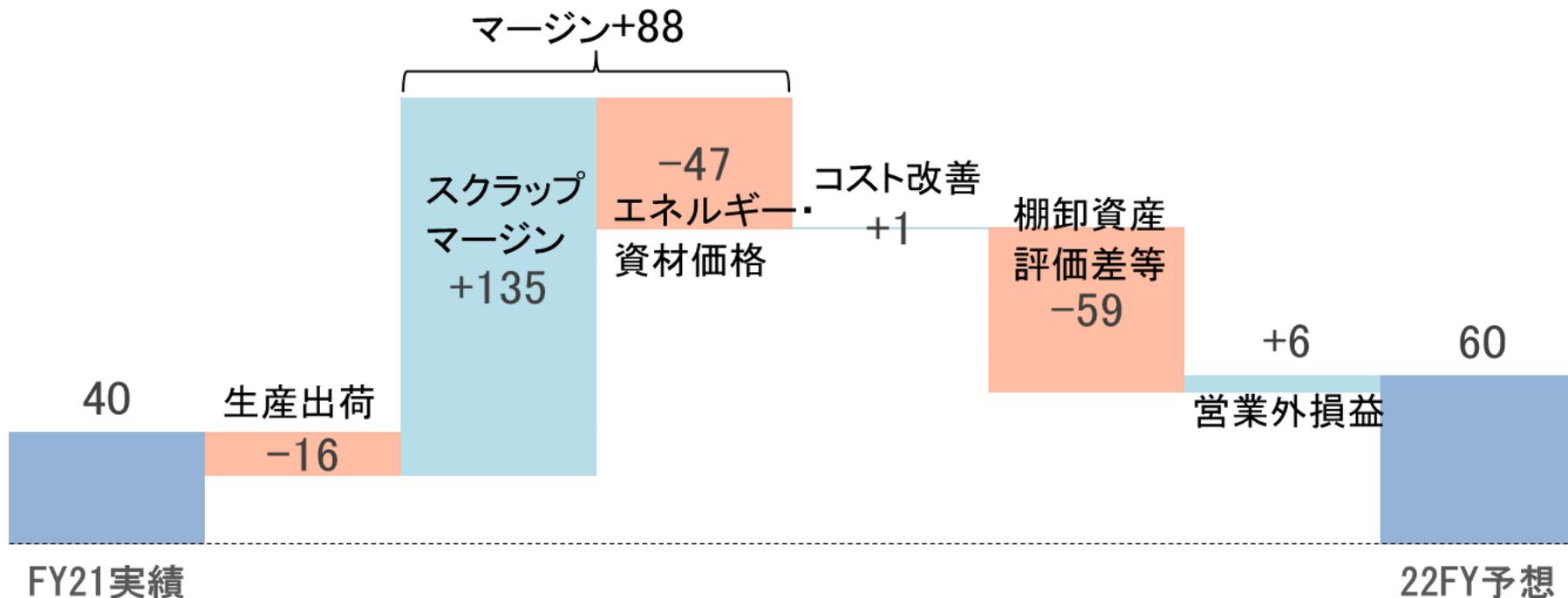
	FY21実績(A)	FY22予想(B)	増減(B)-(A)
売上高	1,045	1,100	+55
営業利益	39	52	+13
経常利益	40	60	+20
特別損失	※1 -1	※2 -14	-13
当期純利益	26	26	-
ROS	3.8%	5.5%	+1.7%

※1:割増退職金

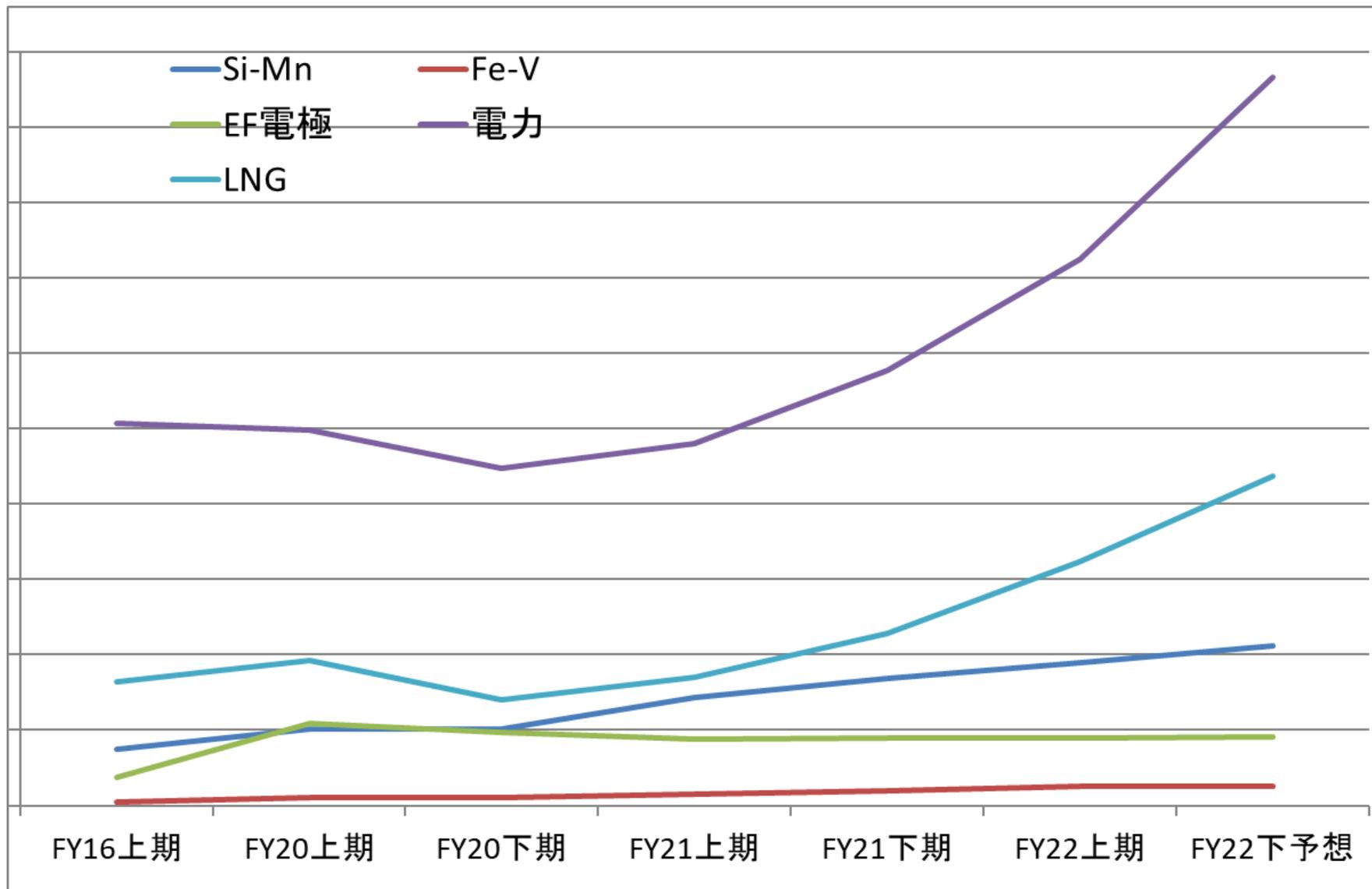
※2:事業構造改善費用

経常利益の変化要因(21FY→22FY)

(単位: 億円)	FY21 実績 (A)	FY22 予想 (B)	増減 (A→B)
経常利益	40	60	+20



エネルギー・資材価格の推移



1. 2021年度 決算の概況

2. 2022年度 業績見通しについて

3. KOSの状況について

4. Sプロの進捗について

KOSは、2021年度(1~12月)は、操業開始以来初めての経常黒字化を実現したが、2022年度に入り厳しい状況が継続

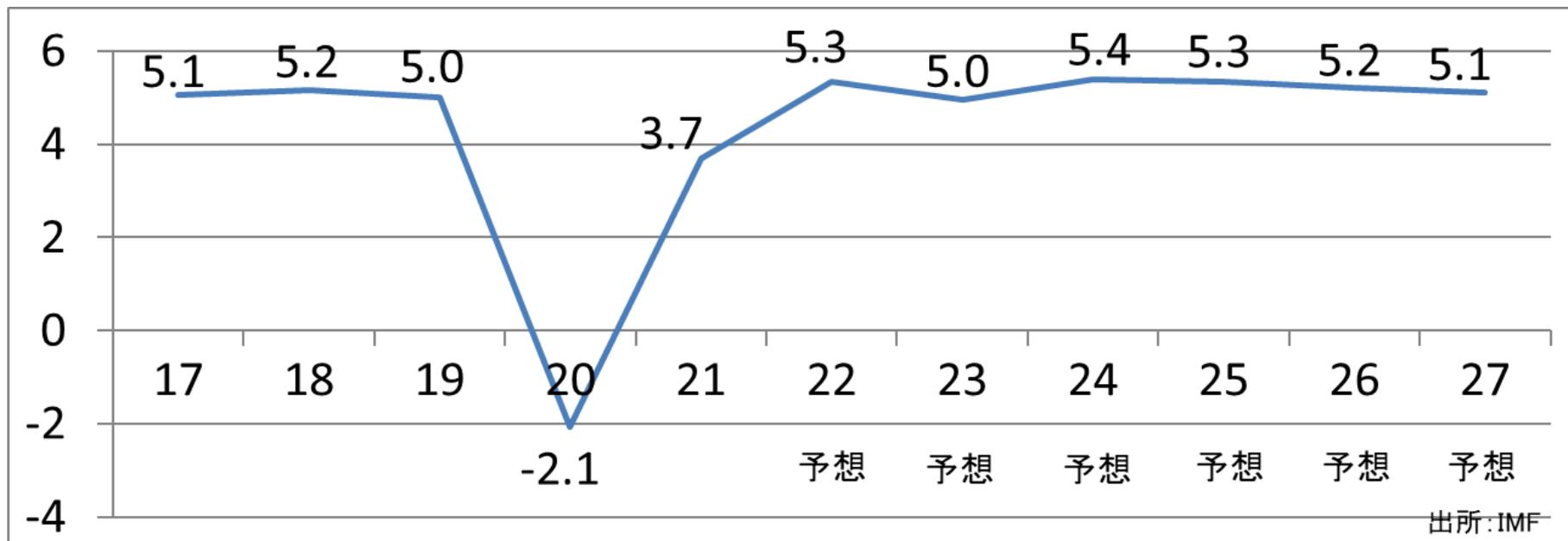
- ・経済成長がインフラ投資に結びつかず、インドネシアの建設需要は低位で推移
- ・ビレット市況の大幅低下に伴い、インドネシアの製品市況が急激に低下したことからマージンが悪化

したことから、厳しい収益環境となっている。



- ・インドネシア経済は、中長期的には今後も年5%強の経済成長が見込まれる
- ・KOSの事業ターゲットであるインドネシアの形鋼市場は、将来的には着実な成長が見込まれることから、需要を確実に捕捉していく。

インドネシアGDP成長率推移



今後も、下記収益改善策を継続実行していくことで、KOSの収益力強化を図る。

- ・形鋼分野拡大、高付加価値製品投入
- ・インドネシアからの輸出拡販
- ・外部からの競争力あるビレット調達推進



1. 2021年度 決算の概況
2. 2022年度 業績見通しについて
3. KOSの状況について
4. Sプロの進捗について

<計画通り生産移管・集約完了>

堺工場での各種規格の認証取得完了
(エレベータガイドレールの大臣認定も含め完了)

堺工場での量産化完了



9月末に恩加島圧延工場休止、恩加島圧延工場の
製造品種の堺工場への生産移管・集約を完了

<特別損失14億円計上>

設備及び建物等の解体撤去費用、固定資産除却損等

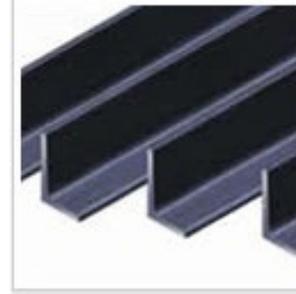
恩加島工場（大阪市大正区）
~~製鋼工場~~（2016.3月休止済）
圧延工場（加工工程のみ一部存続）



エレベータ
ガイドレール



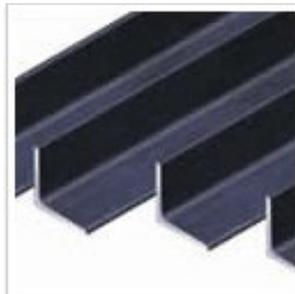
軽レール



不等辺山形鋼
等

堺工場への生産移管・集約

堺工場（大阪府堺市）
製鋼工場
圧延工場



山形鋼



溝形鋼



エレベータ
ガイドレール

終了

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。